

R4 本荘小学校校内研究

(1) 研究主題について

①研究主題

R4年度 研究主題

笑顔でかかわり合い、さらによりよく生きようとする子どもの育成

～一人一人の子どもを大切にした授業を通して～

②主題設定の理由

ア) 子どもたちの姿から

本校はこれまでに、心と行動を繋げることができる子どもの姿を目指して研究に取り組んできた。少人数校でもあることから、子どもたちは学年関係なく、名前を呼び合い、関わる中で、思いやりと寛容さ、協力することの大切さに気づいたり、誰かの役に立つことの喜びを感じたりすることができるようになってきている。しかし、「自分には良いところがある」という自信がもてず、主体的に考え、行動する力に結びついていないという現状もある。家庭環境や親子のかかわりの面では、厳しい状況にある子どもたちも多く、子どもたち一人一人をしっかりと見つめ、寄り添っていくことが必要である。

また、学力の面では、全体的に「読むこと」「書くこと」に課題があり、それぞれの個人差も大きいという実態があるため、下位層の子どもたちがわかる授業づくりを行っていく必要がある。

イ) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は「あいうえお（あいさつ、いのち、運動歌声、笑顔の学び、大きな夢）いっぱいの子どもの育成」である。学校教育目標を受け、今年度の学校重点目標は「自尊感情を高め未来を切り拓く力を身につけるための人権教育の推進」〈認め、褒め、励まし、互いを理解し、支えあい、伸ばす〉としている。そのために、一人一人の子どもを理解し、大切にした授業、子どものつぶやきを見逃さない学び合いのある授業、そして、確実に学力をつける授業を行っていく。

③主題のとらえ方

○笑顔でかかわり合うとは・・・自分の考えを適切な言葉で表現したり、相手の話に耳をかたむけたりしながら交流し、お互いを肯定的に捉えること。

○よりよく生きるとは・・・現在の自分より少しでもよくなるよう、向上心をもつこと。自分の思い通りにならないことや困難なことに直面したときに、その物事を受けとめ、自分なりによりよい方法や解決策を見出そうとすること。

○一人一人の子どもを大切にした授業とは・・・一人一人の子どもの課題やその背景を理解して、意欲をもたせる工夫やわかる手立てを行うこと。

(2) 研究の仮説

一人一人の子どもに寄り添いながら (※1)、意欲を引き出す単元デザインを意識した授業を積み重ね、その中で適切な支援 (※2)を行っていけば、よりよく生きるために、自ら考え、行動しようとする子どもが育つであろう。

(※1 子どもの実態把握と科学的分析により子どもの理解を深めること)

(※2 主体的な学習活動を促す教師の役割)

(3) 研究の視点

【視点1】子ども理解と分析

- ・子どもの実態の把握 (児童理解研修・Q-Uテスト)
- ・それぞれの課題に対応するための支援の工夫 (話す・聞く・読む・書くための支援、ICTの活用)

※QUESTIONNAIRE-UTILITIES テスト→楽しい学校生活を送るためのアンケート

子どもたち一人一人についての理解と対応方法、学級集団の状態と今後の経営方針の把握を行うことができる。【学級満足度尺度】【学校生活意欲尺度】

【視点2】子どもの実態に応じた単元デザインの工夫

- ・子どもも教師も「やってみたい」と感じる学習課題の設定
- ・単元を見通した、身につけたい力の明確化と子どもとの共有

【視点3】子どもたちが主体的に問いを追究する授業

- ・子どもたちが主体となる授業 (子どもの思考を促す教師の支援やそのタイミングの工夫)
- ・学びを実感できる振り返りの積み重ね

(今日わかったこと、〇〇さんの考えから・・・、もっと考えたいこと)

(4) 研究の取組

子どもたち一人一人の成育歴や学習履歴を知ることで、子どもへのアプローチの方法が変わってくる。授業でも、子どもたちを理解した上で、学級全員がわかるような手立てを行うことができると思う。今年度は、年度当初に行う一人一人の児童理解研修と併せて、科学的な分析を行うことで、より理解が深まると確信している。その結果をもとに、子どもたちの困り感に寄り添った授業づくりを行う。

また、子どもたちが「やってみたい」という単元のゴールを示すことや、この学習がどんな

生活の場面で役立つかを知らせ、共有することで、学習への意欲も高まる。子どもたちの実態に合わせた単元デザインの工夫を行い、子どもも教師も意欲をもって学習に臨むことができると考える。

さらに、子どもたち同士の学び合いのある授業を目指す。教師は、子どもたちの思考を促すような問いかけをしたり、子どもたちの言葉をつないだりする役割を行い、子どもたちに任せられる場面をつくることで、子どもたちが主体的に学ぶことができると考える。振り返りを積み重ねていくことも、自分や学級全体の成長を感じることができるとなる材料となり、子どもたちの自信へつながる。

(5) 共通実践

1 三部会の取組

【徳】

- ほめ日記・・・文章を書く指導は行わない。書く時間の確保、コメント書きなどが大変だが、少しずつ書く内容にも成長が見られる。また、自分自身を振り返る材料にもなるので、継続していく。
- トークタイム（木曜朝の活動）・・・今年度初めのトークタイムと、学期末や年度末のトークタイムを録画しておき、自分たちの様子を振り返ることができるようにする。内容は、学年の発達段階に応じて。話型はなし。
- ソーシャルスキルトレーニング（月に1回程度）・・・どのような取組を行ったか、子どもたちの反応など、記録を残しておく。

【知】

- はげみの時間（火曜朝 基礎基本）

	1学期	夏休み
1・2年	認知機能トレーニング・ドリルパーク	
3・4年	きくきくドリル・ドリルパーク	学力検査適用問題
5・6年	リーディングスキル・ドリルパーク	学力検査適用問題

- 児童昇降口のノート掲示は継続

【体】

- 生活リズムがんばり週間
 - チャレンジ・ザ・ノースクリーン週間
 - すこやかチャレンジ
 - 歯みがき週間
 - 校産校消
- ・・・基本的な生活習慣、体力を身につける。

- 2 全員研究授業
- 3 ハッピーちゃんスタンプ

